平成 27 年度「インクルーシブ教育システム構築モデル事業(学校における交流及び共同学習を通じた障害者理解(心のバリアフリー)の推進)」
成果報告書

団体名	戸田市教育委員会

Ⅰ　概要

1　事業の概要

児童生徒及び地域の方々が、障害者スポーツをとおして交流し、障害のあるなし、あるいは程度に関わらず共に高め合うための素地をつくることをねらいとした。

具体的に行った取組は大きく 3 つに分類できる。

1 つ目は、モデル校における取組である。指定した小・中学校において、「ボッチャ」や「ウィルチェアーラグビー」を体験したり、関係者の講話を聞いたりすることにより、障害者理解を深める授業を実施した。2 つ目は、市内小・中学校をつなぐ取組である。特別支援教育推進の機会と捉え、「合同レクリエーション大会」を児童発達支援センターと協力して実施したり、オリンピックの「五輪」に対するパラリンピックの「〇輪」について市内全小・中学校から募集したりした。そして、3 つ目は市内全域に関わる取組である。市教育委員会だけでなく、他の関係機関と連携し、「ウィルチェアーラグビーフェスタ」を開催した。これは、障害のあるなしに関わらず、また、大人も子供も共に障害者スポーツを体験し、障害や障害者スポーツを考える機会となった。

2　事業の成果

モデル校として、小学校 2 校及び中学校 1 校を中心に事業を進めた。これまでに体験することの無かった障害者スポーツ「ボッチャ」や「ウィルチェアーラグビー」の体験や講話をとおして、障害者理解を深める機会となった。講話や体験授業への参加は約 660 人の児童生徒が対象となった。

市内の小・中学校においては、オリンピックの「五輪」に対する、パラリンピックの「〇輪」を考える取組を行ったことで、オリンピックと共にパラリンピックについて考える機会をもつことができ、3144 名の応募を得ることができた。最優秀賞として「互輪」を考えた児童生徒、その他優秀賞の児童生徒については表彰を行い、児童生徒の理解を深め、意識を高めることに寄与した。また、メディアに取り上げられたことにより、障害者スポーツを考えることを広めるよい機会となった。

さらに、市をあげて「ウィルチェアーラグビーフェスタ」を開催したことにより、多くの児童生徒やその家族及びボランティアが、リオデジャネイロパラリンピックに参加する日本代表のコーチや選手に直接触れあうことができ、話をうかがうことができた。200 名を超える児童生徒等にとって大変貴重な機会となった。

モデル校、市内小・中学校、市全体と取組を展開していったことにより、障害者スポーツに対する理解を深めることはもとより、互いを認め、共に生きる社会の形成のための大きな一歩になったと捉えている。

3　事業の課題とその解決のために必要な取組

モデル校での障害者理解に関する授業は該当学年だけであり、その他の学年の児童生徒には障害者アスリートの先生を紹介することができなかった。今後は、全校集会を活用するなど、他学年に渡る取組に広げていく手立てが必要である。また、そのためか、「ウィルチェアーラグビーフェスタ」のモデル校からの参加率は高くなく、モデル地域を指定していることに対する課題が残った。

来年度以降については、今年度の取組をもとに、モデル校の取組を他学年や他の学校へ広げ、それぞれの学校及び学校間の取組が充実するようにしていきたい。